

南三陸町戸倉神社に「祭礼のぼり」寄贈 !! － 東日本大震災の被災地には長い支援が必要 －

南三陸町戸倉・波伝谷(はでんや)地区では無形民俗文化財「春祈禱」が例年だと3月第二日曜日に開かれていましたが、去年は2日前に震災が起き、地区の約80戸がほぼ全て流され中止されました。「春祈禱」は、地区の東方から獅子舞が全戸を回り、家々の厄災を豆腐に封じ込め、西方に封じ込める習わしがあることから、地区の契約講が「災いを払い、地域の結びつきを強めよう」と再開を決められ、今年は例年より一ヶ月遅れの4月15日に、獅子舞が住民の暮らす仮設所住宅を巡り執り行われることになりました。

この「春祈禱」に「のぼり」を立てて元気を出してもらおうと、大原神社で募金した氏子崇敬者の浄財をもとに「戸倉神社祭礼のぼり」紅白50本を3月27日に寄贈しました。



津波被害に遭った戸倉小学校



鳥居が流された戸倉神社



寄贈したのぼり



戸倉神社での寄贈式



契約講代表による「春祈禱」の説明

被災地に赴き、映像では伝わらない広域で甚大な被害を目の当たりにし、被災者の方々に対して長く心を寄せ、継続的な支援が必要であると思います。

「大原うぶやの里」は、東日本大震災で被災された皆さんに心を寄せ、これからも支援をしてまいります。